

# 寿太郎温州(じゅたろう うんしゅう)

登録番号：第642号

育成者：山田寿太郎

登録年月日：昭和59年9月5日

来歴：青島温州の枝変わり

登録者：山田寿太郎(静岡県沼津市西浦久連185)

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢はやや弱く、葉も「青島温州」に比べて2/3程度に小型で、やや細長く、葉色もやや淡い。枝条は繊細で、節間が詰まり「青島温州」と容易に区別することができる。

高接ぎでの1～2年間の生育は旺盛であるが、結実し始めるとともに枝梢は細く、より繊細化して着花過多になりやすい。苗木からの栽培では、肥沃地において1～2年間の生育は旺盛である。しかし、高品質果実の生産されるやや瘠薄な土壌では生育が不良であり、着花過多になる。肥沃地の定植苗木も3～4年経過して結実期に入るとともに着花過多になる、いわゆる花ばけ状態になる。

着花過多になると、花同志の栄養競合が生じて、花および幼果が発育不良(弱く)となり生理落果が激しく、結実不良となる。また、着花過多は春葉・発育枝の発生が少なく、小さく、それが次年度の結果母枝に充実せずに着花するため、翌年の生理落果が多くなるという悪循環を繰り返すことになる。それを回避するためには施肥を秋肥中心とし、秋、冬、初春に窒素を主体にした液肥の葉面散布で発芽初期を栄養生長型にしなければならない。したがって、高接ぎ樹も苗木栽培樹も「青島温州」や他の系統よりも、肥料は多めに施用し、有葉花がある程度生じる栄養状態に栽培することが肝要である。また、生理落果が多く生じた後は、夏・秋枝の発生が多く、その枝には次年度着花過多になり、結実不良の原因となるので、夏・秋枝の発生を抑制するためにも摘果時期をできるだけ遅らせ、小果の摘果は9月になって行う必要がある。高接ぎ樹の中間台木は「青島温州」が適しており、早生温州等に接ぎ木した場合には、台風の襲来等の場合に接ぎ木部から外れやすい。ウイルス病が疑われたが特別な病原ウイルスは発見されなかった。

### ■果実特性

果実の大きさは100～120g程度でM～L級果が中心となり、「青島温州」よりもやや小果である。果実は扁平であるが、母樹の「青島」よりも若干腰が高い。果面は平滑で「青島」よりも美麗である。貯蔵果では果皮の締まりが良く、果実比重は高い。着色は「青島」よりも20日程早く、12月上旬にはほぼ完全着色するので、収穫期間が「青島」より前となり労働配分上望ましい。浮皮果も少なく、貯蔵性が高い。

果肉・肉質は「青島」と同等かやや緻密で品質・食風味は極上である。ただし袋(じょうのう膜)の硬さは「青島」と同等でやや硬い。なお、「青島」同様種子が入りやすいので他品種は近隣に無いほうがよい。果汁成分は糖度12～13度で「青島」よりやや高く、酸含量も高い傾向があり、その分出荷期が「青島」よりも遅れ、2月中旬～3月になる。

### ■病虫害特性

他の温州みかんと同等であり、特別なウイルスは発見されていない。

### ■地域適応性

貯蔵用みかんであるから、現在の2～3月出荷地帯に適し、樹勢の弱いことから、土壌立地条件としてやや肥沃な地帯に適している。

(広瀬和栄)